

第5第

そけいヘルニア 多様な手術方法で 負担を軽減

Dr. 村田の
HGS!
(日帰り・外科・手術)

従来のそけいヘルニアの手術法は、患部を糸で縫って塞ぐ方法でした。糸で縫うということは術後のつっぱり感が大きく、それに伴う痛みが強くなるために長期の入院が必要とされていました。現在は高度な技術による「日帰り外科手術」と医療用器材の開発などによって、より痛みが軽減される手術が可能になり、日常生活に早くもどることができます。

そけいヘルニアには3つの種類があります。次のような場所と穴の大きさによって手術法が決まります。

- 外そけいヘルニア＝そけい靱帯の上の外側から出てくるヘルニア。子どもを含めて一番多い。
- 内そけいヘルニア＝そけい靱帯の上の内側からでてくるヘルニア。
- 大腿ヘルニア＝そけい靱帯の下（足の付け根部分）から出てくるヘルニア。出産を経験した女性に多くみられる。

手術法には、腹膜を形状維持リングに縁取られた円形メッシュで上から覆う「ダイレクトクーゲル法」、筋肉の弱い部分にメッシュを入れてヘルニアの出口をふさぐ「メッシュプラグ法」があります。どちらの手術法も30分～1時間で終了になります。また子どもや女性で穴がごく小さい場合には、穴に近い部分を糸で巾着状に縫合するだけで塞ぐことができる「高位結さつ術」で処置します。異物が入ることがなく糸も6ヶ月～8ヶ月で溶けるので、将来の妊娠を考える方にはとても優しい手術法になります。

そけいヘルニア Q&A

- Q** 使用されるメッシュの素材が体に合わないことはありますか。
- A** ポリプロピレン製は50年程前から使用されていますので大半は問題ありません。もしアレルギー反応が確認された場合は糸のみで縫合します。



「日帰り手術も入院も、同じく痛み止めを飲んでいただきますが、入院の場合、術後は横になっている時間が長いことで体力が落ちたり、高齢の方は寝たきりへのリスクもゼロではありません。日帰り手術で当日にご自宅に帰っていただき、いつもの生活に早めにもどって、リラックスして快復につなげていってほしいですね」

穴をふさぐメッシュは手術法によって使い分けます。中央の円錐形のメッシュは、小さい穴に用いられる特にやわらかい素材。花びらに似た形は穴にしっかりフィットする二重構造。また、年内には素材が軽く術後の痛みがかなり楽になる、自然に溶ける形状記憶のリングを使用した手術が日本でも始まります。